

## 麒麟獅子舞を中核とする日本遺産申請 &lt;今後の方向性&gt;

## 1 前回申請の審査結果（委員コメント抜粋）

- ◆地方史、民話、祭など民俗学的領域を日本遺産としてどう取り扱うか、総合的な検討が必要。
- ◆麒麟獅子舞への興味を訴求するストーリーがあると良い。麒麟獅子舞の説明になっている。
- ◆コミュニティの絆の確認としての祭りに焦点を当てている点が興味深い。麒麟獅子舞を域内外に広く伝えるための工夫が望まれる。
- ◆麒麟獅子舞だけではストーリーとして弱い。取組内容により一層の具体性が必要。
- ◆麒麟獅子舞は興味深いが、祭という非日常性がゆえに、いつ行っても見えない点が厳しい。

## 2 平成29年度申請が不採択となった要因分析

- ①麒麟獅子舞が無形民俗文化財のため、観光客等がいつ行っても本物を見ることができない。

日本遺産におけるストーリーの中核は、いつでも見ることのできる有形の素材

- ②麒麟獅子舞の歴史的事実や広がり、文化財等とのつながりが薄く、ストーリーを面として興味深いものに表現できない。

## 〔無形で唯一認定「キリコ祭り」の採択要因〕

- 7月～9月の3か月ではあるが、この間は毎日キリコ（祭り）が見られる。  
⇒麒麟獅子舞は一定期間であれ、毎日見られる環境ではない。
- キリコ会館があり、担ぎ手はなくとも常設展示でキリコが見られる（通年鑑賞を補完）  
※麒麟獅子舞は舞手により自立する文化財。常設では獅子頭程度の展示が限界であり、本物の常設鑑賞は困難⇒文化庁は展示環境の整備を「常時見られる」とは評価しない。



## 3 ストーリーの今後の方向性について

ストーリー審査基準5項目※、上記①②要因分析等を踏まえ、以下を候補に、文化庁協議を踏まえた上で、1市6町で今後の方向性を決定する。

## A 案（麒麟獅子舞中核型）

麒麟獅子舞を中核に、麒麟獅子が見た景色、支える人の暮らし、生業とその多様性、違いなどを麒麟獅子目線で広がりのあるストーリーに磨き上げる。

⇒昨年からの切り口を変え、圏域や麒麟獅子舞への興味を訴求するストーリーが必要

## B 案（麒麟獅子舞＋有形素材のW中核型）

無形である麒麟獅子舞と関係の深い神社等の有形素材の面白い伝承や話を選択・組み合わせ、広がりのあるストーリーとして仕上げる。

⇒麒麟獅子舞と魅力的な有形素材の融合による興味深いストーリーが必要

## &lt;参考&gt;ストーリー審査基準5項目

- ◆興味深さ：人々が関心を持ったり惹きつけられたりする内容となっている。
- ◆斬新さ：あまり知られていなかった点や隠れた魅力を打ち出している。
- ◆訴求力：専門的知識がなくても理解しやすい内容となっている。
- ◆希少性：他の地域ではあまり見られない希少な点がある。
- ◆地域性：地域特有の文化が現れている。